

台灣歷世新報社編

台灣大年表

台灣經世新報社編

# 台灣大年表

明治二八年—昭和十三年  
一八九五年—一九三八年

南天書局發行

一九三八年十二月台北四版發行  
一九九四年九月台北二刷發行

定價新台幣一〇〇〇元正

## 台灣大年表

編者 台灣經世新報社  
發行人 魏德文  
出版者 南天書局有限公司  
登記證字號：局版台業字一四三六號  
發行所 南天書局有限公司  
中華民國·台北市羅斯福路3段283巷14弄14號  
電話(TEL)：(02)33621019  
電傳(FAX)：(02)33623834  
郵政劃撥：〇一〇八〇五三三八號  
印刷者 國順印刷有限公司  
板橋市中止路216巷2弄13號  
電話(TEL)：(02)9677226

ISBN 957-638-223-8

普賢菩薩摩訶薩

## 凡 例

- 一、本書は領臺以來三十餘年間の重要事項を網羅し進歩變遷の状を一目の下に瞭然たらしめんとするにあるも舊時代の歴史も亦閑却す可らざるものあるを以て之れを前編とし帝國領有以後を正編としたり
- 一、前編は臺灣が夷州として支那史籍に現はれし以來の顯著なる事實を年誌體となし近代に及ぶに至りて勉めて精密を期したり
- 一、正編は日清講和條約批准交換の日より昭和六年十二月末まで滿三十六年間の重要事項を簡拔網羅し順を追て日誌體となしたり
- 一、正編には皇室を始め政治、經濟、教育、衛生、軍事、宗教、出版、藝術、人事其他百般の事項に就て其重なるものは能ふ限り輯録に努め更らに第三版發行に際し幾多の訂正増補を施したるも尙ほ脱漏せるものゝ多からんを虞る、且頻繁なる法令の改廢に就ては廢令は多く省略し改令は重要なるものゝみに止めたり
- 一、明治廿八年以來の文武官職員の重なるものを各年末に表出したるが其時日の一定せざるは材料蒐集上己むを得ざるものとして寛恕を乞はんと欲す
- 一、第三版發行に方り正編各項の索引を卷末に附したるが事項の分類區別し難きものは相互に涉り索引を涉獵せられんことを請ふ
- 一、本書は稻垣其外監修北川洗耳編纂の任に當りたるが此間尾崎秀真氏の多大なる援助を受け臺北圖書館の好意を蒙れるもの少なからず茲に記して敬意を表す

昭和七年三月一日

臺灣經世新報社編輯局

## 第四版發刊に就いて

時の流れは桑海の現實を眼の當りに示めず、臺灣經世新報は稻垣其外翁の沒後遂に廢刊、本書改訂版の世に出でざるを憾みとしたるに、其外翁の第三回忌に其記念碑建立を期とし犠牲を拂つて記念のため刊行を企圖せり

時は不足、資は不敏、達せざるところ多し、昭和七年より同十三年上半期まで六個年半の輯録は相當の難澁を感じたるも敢行せり、故に種々の誤謬脱漏のあることは大方の叱正を乞いて、次版にて再訂せむ

發刊に際し、友人鈴木質、柴田梧榔、杉山俊一氏等の援助を蒙むれることを厚く謝す

昭和十三年十二月

# 臺灣大年表

## 前編

四四二	孝靈七二始皇二八	徐福童男童女を率ゐ夷州及び亶州に移住す(夷州は臺灣にして亶州は比律賓なるべし)	一八三二	承安 二 乾道 八	蘇面の蕃人八人伊豆の一島を襲ひ島人を掠め去る(蘇面蕃人は臺灣人なるべし)
五三〇	開化二七元光 四	東鯤人として漢史に見ゆ(東鯤は臺灣及び沖繩列島を指す)	一九四一	弘安 四 至元一八	我が九州を脅威したる元の軍艦逃げて臺灣及び澎湖に至り再び颶風に遇ふて福建に還る
八九〇	神功三〇建興 八	吳の孫權將軍衛溫諸葛直をして海に航し夷州亶州を求めしむ亶州は絶遠にして至るを得ず夷州の數千人を獲て還る(夷州は臺灣なるべし)	一九五一	正應 四 同 二八	元瑠求を征せんとし先づ使を遣はしたるも達せずして歸る(瑠求是臺灣なり)
二二六五	推古一三 大業 元	隋煬帝海師何蠻の言を用ゐ羽騎尉朱寬をして何蠻と共に琉球を探検せしむ一人を奪して還る(琉球は臺灣なり)	一九五七	永仁 五 大徳 元	元の高興瑠求を征し百三十餘人を擒にして還る此頃澎湖居民漢人一千六百餘人
二二六六	同 一四 同 二	煬帝朱寬を琉球に遣はし招撫せしむに従はず	一九七七	文保 元 延祐 四	波羅公の民温州永嘉縣に漂著す(波羅公は臺灣なるべし)
二二六七	同 一五 同 三	煬帝虎賁陳稜を遣はし兵一萬餘を率ゐて琉球を攻略せしむ	二〇〇九	正平 五 至正 九	元の汪大淵琉球を探検し其の著島夷誌は沙金を産することを記載す(琉球は臺灣なり)
二二七五	同 二三 同 一一	掖玖人三十人相前後して日本に歸化す(掖玖は臺灣及び沖繩列島の總稱なり)	二〇三二	文中 二 洪武 五	明琉球を經略せんことをす
一四六六	大同 元 元和 元	唐貞觀年間馬來群馬より臺灣に移住するものあり	二〇三四	同 三 同 七	吳頌倭寇を追ふて琉球に至る
一四六六	大同 元 元和 元	唐元和の進士施肩吾澎湖を詠する詩あり澎湖島の藝文に見はれたるは之を嚆矢とす或説に曰く施肩吾は家眷を率ゐて澎湖に移住す	二〇四七	元中 四 同 二〇	澎湖に於ける巡檢を廢し居民を悉く漳泉に従す之より澎湖海寇の巢窟となる
一五一一	三 仁壽 三 大中 七	智澄大師等の渡唐船臺灣北部の海岸に漂着す	二〇八九	永享 元 宣徳 四	永樂年中太監三保鄭和師を率ゐて臺灣を探検す
一六五七	長徳 三 至道 三	十月一日太宰府南蠻人亂入を告ぐ(南蠻とは臺灣方面蠻人の總稱なり)	二二〇四	天文 一 三 嘉靖 二 三	葡萄牙人初めて臺灣近海に航しイラーホルモサと命名す
一六八〇	寛仁 四 天禧 四	十二月太宰府南蠻四十餘人を獲たりと報す	二二二三	永祿 六 嘉靖 四 二	海寇林道乾澎湖より臺灣へ遁入す都督俞大猷追ふて鹿耳門を哨して歸る(鹿耳門は今の安平附近)
一六八〇	寛仁 四 天禧 四	南蠻賊徒薩摩國に來り人民等を擄掠す	二二四〇	天正 八 萬曆 八	海寇曾一本澎湖に據る

二二五二	文祿 元同	二〇	倭淡水鷓籠を侵す(鷓籠は基隆)
二二五四	同 三同	二二	魚屋助左衛門呂宋より堺に歸る途次淡水に寄港す
二二五六	慶長 元同	二四	秀吉原田孫七郎をして書を高山國に送りしむ(高山國は臺灣なりマカサゴを調む)
二二五七	同 二同	二五	リンスホーテンの旅行記中臺灣地圖を載す
二二五九	同 四同	二七	明游兵を澎湖に置く、澎湖明の版圖に歸す
二二六三	同 八同	三一	臺灣日本に貿易を請ふ(臺灣の文字我が文献に見ゆるは之を嚆矢とす)
二二六八	同 一三同	三六	和蘭人軍艦を率ゐる澎湖に來り互市を請ふ
二二六九	同 一四同	三七	家康バンチャ國人を見る(バンチャ國は東部臺灣アミ蕃)
二二七二	同 一七同	四〇	有馬晴信家康の命に依りマカサゲン國を經略せんとし捕虜を獲て還る(マカサカンは臺灣なり)
二二七五	元和 元同	四三	和蘭人澎湖に入る
二二七六	同 二同	四四	鄭芝龍肥前國平戸に來る
二二七九	同 五同	四七	異國渡海御朱印帖に高砂國の名あり我が文献に高砂の文字あるは之を嚆矢とす(高砂は臺灣)
二二八二	同 八天啓 二	二〇	村山等安家康の命に依り琉球と聯合して臺灣を攻略せんとして果さず
二二八三	同 九同	三〇	倭鷓籠の地を取る
二二八四	寛永 元同	四〇	山田長政臺灣に航し次で暹羅に入る
		三〇	和蘭人澎湖に據る明政府抗議す
		三〇	和蘭人日本人に請ひ臺灣の地若干を得て日本通商船の修補地と爲す
		三〇	和蘭人澎湖を退き南部臺灣に據る(六月)
		四〇	和蘭人澎湖を退き南部臺灣に據る(六月)
		四〇	海寇頗思齊臺灣に據る(荖州文稿に曰く萬曆年間海寇頗思齊據有其地始稱臺灣)

二二八五	同 二同	二五	和蘭領事ソック日本人の關稅代償として精十五ヒコルを沒收す
二二八六	同 三同	二六	西班牙人基隆に據り社寮島をサン、サルゲアドルと命名し基隆をサン、テシマ、トリニダットと命名し砲臺を築き教會堂を建つ日本人支那人の通商盛んなり
二二八七	同 四同	二七	末次平藏の商船福州に到らんとし澎湖を過ぎ蘭人の暴行に遭ふ
二二八八	同 五崇禎 元	二八	濱田彌兵衛セイランシア若(今の安平)に於て和蘭領事マイツに強硬なる損害要償の談判を申込み聽容せらる
二二八九	同 六同	二九	七月西班牙人淡水に回航しサン、ドミンゴ城を築き教會堂を建つ
二二九〇	同 七同	三〇	七月和蘭人西班牙人を淡水に攻め勝つ能はず
二二九二	同 九同	三二	和蘭人のセイランシア城成る
二二九三	同 一〇同	三三	西班牙人淡水より臺北に入り基隆河に沿ひ基隆に通ずる陸路を開く
二二九四	同 一一同	三四	西班牙人三貂角地方を探検す
二二九六	同 一三同	三六	西班牙人の淡水に在るもの二百人基隆に在るもの三百人西班牙船二十二隻同時に基隆に入る事あり
二二九七	同 一四同	三七	滿州國號を建てて清と曰ふ
		三九	和蘭人宣教師カンチス臺灣地誌を著す



二二九九同	一六同	一二	○和蘭東印度會社の視察者臺灣に来る
二三〇二同	一九同	一五	○九月西班牙人和蘭人に驅逐され臺灣を退く
二三〇五正保	二弘光元	隆武元	○鄭成功國性爺と號す ○鄭成功母田川氏長崎より泉州に赴く ○蘭人歸附土蕃の長老を集め臺灣に評議會を組織す ○和蘭宣教師ロベルトユニウスの臺灣蕃語宗教問答編纂成る
二三〇六同	三隆武二	二	○清剃髮の令を下す ○鄭芝龍清に降る ○鄭成功の母田川氏自殺す ○鄭成功僮服を焚き大義を唱ふ
二三〇七同	四永曆元	元	○大清律令を頒行す ○蕭壩及び新港等の土蕃部落に基督教勸興す
二三〇八慶安	元同	二	○和蘭人士蕃教育の學校を臺南及び蕭壩に設立す
二三一〇同	三同	四	○和蘭人のプロヴァイデンチヤ城(今の臺南)成る ○和蘭宣教師ハツパツルツスの臺灣フアホラング語字書成る
二三一二承應	元同	六	○倫敦に於て臺灣に於ける土人五千九百餘名の改宗を出版す ○郭懷一和蘭人を臺灣より驅逐せんとして成らず
二三一七明曆	三同	一一	○和蘭人蕭壩に布教學校を設立す
二三一八萬治	元同	一二	○鄭成功を延平郡王に封ず次で潮王に晋む ○鄭成功援を日本に請ふ聽さず ○和蘭人偶像崇拜者を鞭打放逐するの刑を布く
二三二〇同	三同	一四	○鄭成功商船を臺灣に送り通商せしむ
二三二二寛文	元同	一五	○和蘭人パタバヤより援兵を送り臺灣の成兵一千五百人に達す ○和蘭宣教師タニエルクラウヴィッス新約全書中の馬太約翰二傳を蕃語に譯す ○泉漳兩氏苗粟二、三堡に移住す
二三三二同	二同	一六	○三月八日鄭成功臺灣に占據せる和蘭人を攻め南部臺灣を占領す和蘭人は僅かに安平セーラングヤ城を保つのみ ○和蘭領事コエットを交代せしむべくパタバヤより新領事クレンクを送りしも鄭氏と戦闘中なるを以てクレンクは淡水及び基隆にある和蘭人と共に直に日本に向ふ ○五月鹿耳門水漲ること丈餘に及ぶ ○五月鄭氏臺灣を東都と改稱し赤崁城を改めて承天府とし天興(嘉義)萬年(鳳山)二縣を置き屯田制を創つ ○十二月鄭氏安平より和蘭人を驅逐し全臺灣を領有す
二三三三同	三同	一七	○和蘭人清國と聯合して臺灣を恢復せんことを企つ
二三三四同	四同	一八	○英人鄭氏と安平厦門の兩地に於て通商するの約を締結す ○八月清の禮部考試科目を定む
二三三五同	五同	一九	○明朝皇室の諸親王寧靖王等臺灣に來り鄭氏に依る ○正月鄭經安平鎮に於て明主に遙拜朝賀の禮を行ふ ○清の靖海將軍施琅臺灣を攻めんとし船外洋に至り颶風の爲め漂散して還る ○和蘭人一時基隆に據る
二三三六同	六同	二〇	○鄭經臺灣に聖廟を建て學制を布く ○呂宋の西班牙僧臺灣に來れる者を介して交通す
二三三八同	八同	二二	○二月清帝大臣明珠奏請に詔し鄭經を招諭す經復た肯せず ○鄭氏の將呂宋を征せんを議する者ありしも行はれず

二三三三	延寶 元同 二七	○吳三桂雲南に據りて叛し使を臺灣に遣はし款を鄭氏に通じ合縱して事を擧げんことを企つ	二三四五	同 二同 二四	○臺灣府儒學を創建す
二三三四	同 二同 二八	○四月耿精忠將士謀し鄭經を奉ぜんこす經臺灣より海を渡りて泉州に入る	二三四七	同 四同 二六	○初めて在臺民の福建郷試に應ずるを准す
二三三五	同 三同 二九	○清國鄭經に歸降を勸む	二三五〇	元祿 三同 二九	○臺南城外の舊鄭氏北園を改め海會寺を建立す
二三三九	同 七同 三三	○CESの等閑に附せられたる臺灣成る	二三五一	同 四同 三〇	○八月暴風家屋を破壊し船舶顛覆難破するもの多し
二三四〇	同 八同 三四	○五月内閣學士徐元文翰林院學士葉方鶴右庶子張玉書等に詔し明史を修めしむ	二三五二	同 七同 三三	○臺灣府誌初修成る
二三四一	元同 三五	○二月鄭經清國との戦敗れ金厦二島を棄て臺灣に還る	二三五五	同 八同 三四	○臺灣知府新治揚臺南地方の熟蕃に社學を設く
二三四二	同 三同 三六	○鄭經疾を以て逝く享年四十子克塽繼ぐ	二三五六	同 九同 三五	○徐禮祖の臺灣隨筆成る
二三四三	同 三同 三七	○陳永華逝く	二三五七	同 一〇同 三六	○吳球亂を謀る
二三四四	同 三同 三六	○鄭經の長子監國克塽弑さる	二三五九	同 一二同 三八	○頼科と稱する者山を越えて崇爻(臺東高山蕃)に至る黃を採收す
二三四五	同 三同 三七	○寧海將軍喇順逆を誅らざるべき旨を本島民に諭す	二三六〇	同 一三同 三九	○仁和の人郁水河初めて西部臺灣内地を探検し北投の硫黄を採收す
二三四六	同 三同 三七	○清國討臺の議を決す	二三六一	同 一四同 四〇	○淡水の吞背蕃社を討つ次いで北投蕃社を夷ぐ
二三四七	同 三同 三七	○劉國軒施琅と澎湖に戦ひ敗れて臺灣に還る	二三六二	同 一四同 四〇	○諸羅劉却亂を作す
二三四八	同 三同 三七	○六月寧靖王自經す五妃亦殉死す	二三六三	同 一四同 四〇	○崇文書院を臺南城内に建つ
二三四九	同 三同 三七	○七月十九日鄭克塽清國に歸降す是に於て明の正朔全く絶え鄭氏亡ぶ	二三六四	寶永 元同 四三	○江日昇の臺灣外記成る
二三五〇	同 三同 三七	○清國は臺灣を収めて版圖とし福建省に屬せしめ分巡臺厦道を置き學政使を兼理せしむ	二三六五	同 二同 四四	○フサルマナザルの臺灣地理歴史成る
二三五一	同 三同 三七	○陳文林侃等の商船初めて臺東の蕃地に來航す	二三六六	同 三同 四五	○冬大に饑ゆ詔して府屬三縣の糧米を免す
二三五二	同 三同 三七	○五月大水あり鄭氏の田圃多く陥没す	二三六八	寛永 五同 四七	○嘉義縣儒學を創建す
二三五三	同 三同 三七	○六月大星海に隕つ其の聲雷の如し	二三七〇	同 七同 四九	○鳳山舊城に公署を置く
二三五四	貞享 元康照 二三	○臺灣府及び臺灣、諸羅、鳳山の三縣を設く(臺灣府及び臺灣縣は今の臺南にして諸羅は嘉義、鳳山は舊城なり)	二三七一	正徳 元同 五〇	○四十七年より臺灣屢々荒れ米價高騰す知府周元文倉粟を出し賑祖宮、府學の兩處に於て平糶す海防同知洪一棟は商賈を招集し凡そ米を載せて入港するものは皆其の名を録し厚く賞資を爲す故を以て米船雲集し饑饉なるも敢て苦を見ず
二三五五	同 三同 三七	○臺灣府内港を開き海防同知を置き廈門と通航するを准す	二三七二	同 二同 五一	○閩人初めて臺北平原に入る
二三五六	同 三同 三七	○臺灣縣儒學を創建す次いで鳳山縣儒學を創建す	二三七三	同 二同 五一	○萬壽宮中殿(臺南)を以て朝賀の處とす
二三五七	同 三同 三七	○養濟院を臺灣諸羅鳳山三縣に創建す	二三七四	同 二同 五一	○全臺の地租を免す
二三五八	同 三同 三七	○臺灣に渡航する者家眷を招致するを禁す			

二三七三同	三同	五二〇	○人頭税額を定限し本年の人口を以て定めとし以後人口増殖するも課税せざることをせり
二三七四同	四同	五三〇	○イエスイト宣教師ツ、マイラ等清國政府の委囑を受け本島西部を測量し緯度を定む
二三七五同	五同	五四〇	○秋大旱す詔して臺灣鳳山の粟米十分の三を免す
			○閩浙總督初めて土蕃歸附の狀を奏す
			○マイフの臺灣史成る
			○九月地大に震ふ
二三七六享保元同	元同	五五〇	○夏諸羅の十八重溪火を出す數日にして熄む
二三七七同	二同	五六〇	○陳夢林の諸羅縣志成る
二三七八同	三同	五七〇	○八里坌に淡水營守備を置く
二三七九同	四同	五八〇	○鳳山縣志成る
			○關渡天后宮移築
二三八〇同	五同	五九〇	○海東書院を臺南城内に創建す
			○十二月大地震十餘日斷續す家屋倒潰壓死者を出す
二三八一同	六同	六〇〇	○朱一貴亂を作す
			○黃敬の臺南古圖成る
			○鳳山縣專庄義民の爲め忠義亭を建つ
			○巡視臺海觀察御史を置く
			○臺南縣志成る
			○漢人臺中附近の海岸に移住す
			○八月大風住家を倒壞し哨艦商船漁舟等盡く難破し兵民溺死する者多し
二三八二同	七同	六一〇	○阿里山水沙連各社の亂平ぎ來番撫に就く
			○漳州の把總朱文柄の船難破して蛤仔難(宜蘭)蕃地に漂著す
			○西部の蕃界に石を立て、境界を畫す
			○鳳山縣下赤山破裂す長さ八丈濶さ四丈黒泥を湧出し夜火光を噴出す高さ丈餘に及ぶ
二三八三同	八同	六二〇	○聖諭十六章を頒つ

二三八四同	九同	二	○淡水廳、澎湖廳及び彰化縣を設く(淡水廳は今の新竹なり)
			○水社連蕃歸附す
			○鹿港元の平臺紀略成る
二三八六同	一一同	四	○諸羅縣志成る
			○明史を重修せしむ
			○滬尾(淡水)城を修理す
			○重修明史成る
			○八里坌巡檢を置く
			○水社連蕃社を討つ
			○熟蕃婦の人頭税を免じ蕃丁の人頭税を一石三錢六厘の比にて納めしむ
			○鹽制を發布し鹽業を官營とし臺南府の管理とす
			○彰化縣儒學を創建す
			○奎樓書院を臺南城内に建つ
			○ウアレンタインのフォルモサ及び和蘭貿易の著成る
二三八七同	一二同	五	○巡道尹奎臺海田制の利弊を調査し彰化以北の新開地に新制を布かんとを奏請す
			○駐臺の兵員を練選して派遣交代するの例を定む
二三八八同	一三同	六	○臺南道を置く學政使は觀察御史の兼理とす
			○閏七月暴風雨哨艦商船を覆没し兵民多く溺死す
二三八九同	一四同	七	○山猪毛蕃社を討伐す
			○潜かに渡臺を企つる者を捕ふるの制を定む
			○駐臺の兵員に毎年賞銀四萬兩を與ふるの例を定む
			○陳倫炯の海島見聞録成る
二三九〇同	一五同	八	○吳福生亂を作す
			○大甲蕃社を討伐す
二三九二同	一七同	一〇	○在臺民の家眷を招致するを准す
			○大甲蕃社を征するの記念として彰化縣に鎮番亭を創建す
			○鹿港元の東征集成る

二三九三同	一八同	一一	○雍正元年欽定の聖諭廣訓十六章を臺灣に頒行す ○文官にして年齢四十を過ぎて子なき者は家眷を携へて渡臺するを准す ○各廳縣に土蕃社學を設け教化を受けたる熟蕃を以て社師とす ○八里空の淡水營守備を都司營に陞す	二四〇七同	四同	一二	○臺民の家眷を携帶するを禁す ○人頭税を全臺の田賦に配し徵收するの例を定む ○粵族捕裏(苗栗)に入る
二三九五同	二〇同	一三	○眉加攬蕃社を討伐す ○夏五月蛇山崩れて巖石の墜落する音數里に聞ゆ ○秋七月大水あり溪流漲溢し牛屏山崩壞す	二四〇八寬延	元同	一三	○大清一統志を撰せしむ
二三九六元文	元乾隆	元	○書院規訓を頒つ	二四一〇同	三同	一五	○秋七月大雨水あり臺灣、永康、武定、廣儲西、新化、新豐、仁德北、崇德諸里の田園浸水陷没するもの百四十甲 ○八月大暴風あり住家倒壞算無く商船百餘隻顛覆難破す知府方邦基の船難破し隨從二十一人の中生存者僅かに四人
二三九七同	二同	二	○元々を愛養するこゝ内地百姓と海外民蕃と同一なりとの趣旨に依り人頭税を二錢に減じ之に準じて熟化蕃の餉額を裁減すべき旨皇帝の上諭あり ○漢人と蕃人との結婚を禁止す	二四一二寶曆	二同	一七	○重修臺灣縣志成る ○石を蕃界に立て、民蕃の境界を明かにし且つ漢人の蕃地に入るを禁す ○觀察御史の學政使兼理を解き臺灣道をして兼理せしむ ○秋七月大風あり風の過ぐる處草木悉く焦萎す俗に麒麟颯と名付く
二三九八同	三同	三	○龍潭龍山寺を建つ	二四一三同	三同	一八	○秋八月大風あり農作物被害甚し詔して貧民を賑恤し供粟六千三百九十六石を免す ○龍門書院を斗六に建つ
二三九九同	四同	四	○漢人の蕃地を侵占するの禁を公布す ○校士院を臺南城内に建つ	二四一四同	四同	一九	○四月地震の爲め淡水廳毛翁少社(士林附近)の地陷没して大沼となれり
二四〇〇同	五同	五	○大學訓を頒つ ○臺民の家眷を招致するを禁す ○岸裡社土目墩仔潘姓を賜ふ	二四一七同	七同	二二	○臺灣初めて進士に登第する者あり ○志摩の船臺灣に漂著す
二四〇一寬保	元同	六	○重修臺灣府誌成る	二四一八同	八同	二三	○熟蕃をして清俗に倣はしめ且つ姓を稱せしむ ○十月諸羅暴風雨三晝夜に及び農作物收穫なし
二四〇四延享	元同	九	○臺海の武官にして名を壘地に託し自ら莊田を置くこゝを禁す ○淡水廳白沙墩に落雷あり大魚二十二尾沙上に斃死す	二四一九同	九同	二四	○臺灣知縣夏湖捐資して臺民の死屍を廈門に轉送し遺族に交付す ○八里空都司營を龍潭に移す ○玉峰書院を諸羅城内に建つ
二四〇五同	二同	一〇	○臺民の家眷を携帶するを准す ○八月澎湖島大暴風あり損害頗る多し ○白沙書院を彰化城内に創設す	二四二〇同	一〇同	二五	○臺民の家眷を携帶するを准す ○天后宮を八里空に建つ
二四〇六同	三同	一一	○續修臺灣府誌成る ○全臺の地租を免す ○寧靖王及び五妃の墓を修む ○普濟殿を創設す				

二四二四	明和	元同	二九	○新修臺灣府志成る ○重修鳳山縣志成る
二四二五	同	二同	三〇	○明治書院を新竹城内に創建す
二四二六	同	三同	三一	○南北理蕃同知を置く南路は海防同知之を兼ね ○文石書院を澎湖島の文瀾に創建す
二四二七	同	四同	三二	○胡三水の澎湖紀略成る
二四三〇	同	七同	三五	○黃教亂を謀る ○漢林生なる者蛤仔難蕃地を探検して殺さる
二四三二	同	八同	三六	○八月波蘭伯爵マウリス、ベネオウスキー臺灣東部を探 検し殖民を企つ
二四三三	安永	二同	三八	○四庫全書成る
二四三九	同	八同	四四	○十八省通史成る ○文體を釐正する上諭を頒つ
二四四二	天明	二同	四七	○泉漳人分類械闘あり
二四四四	同	四同	四九	○鹿港を開き運蕃同治をして兼ねしめ蚶江と通航するを 准す
二四四六	同	六同	五一	○八月暴風雨住家倒壊多く船舶漂碎するもの多し ○林爽文亂を作す、十二月鳳山及淡水陷る
二四四七	同	七同	五二	○十一月三日夜三大星隕つ大き斗の如く響雷に似たり一 は南方に墜ち一は西方に墜つ一は澎湖海中の大石上に 墜ち其の石破裂す
二四四八	同	八同	五三	○閩粵人分類械闘す ○吳沙蛤仔難蕃地の開拓を企つ ○ラ、ペールズ臺灣を探検す ○四月西定坊出火し住家二百餘戸焼失す詔して本年の地 租率を減す ○官民械闘に駐す ○小説淫書を禁止するの上諭を頒つ ○諸羅縣を嘉義縣と改む ○鳳山城を大竹橋下坂頭に移す ○鄭用錫生る
二四五一	同	三同	五六	○屯蕃の制を布く ○未化蕃界に官隘を置く ○械闘祖師廟建つ
二四五二	同	四同	五七	○八里坌港(淡水)を開き巡檢をして管掌せしめ蚶江及び 五虎門と通航するを准す
二四五五	同	七同	六〇	○陳周全亂を爲す
二四五六	同	八同	六一	○吳沙蛤仔難に入り開拓に著手す(宜蘭始めて開かる)
二四五七	同	九同	六二	○全臺の地租を免す ○士林天后宮成る
二四六二	享和	二同	六七	○楊光亂を謀る ○琉球買船風を犯し宜蘭に至り開拓の利を説く
二四六三	同	三同	六八	○吳沙の姪吳化宜蘭平野の五圍を開き居を定む ○正月二十八日箱館の船師文助等九人チヨプラン島(臺 灣東海岸)へ漂着す
二四六四	文化	元同	六九	○彰化地方の平埔蕃内山を越え蛤仔難に入る者あり
二四六五	同	二同	七〇	○海寇蔡牽來り犯す
二四六六	同	三同	七一	○械闘陷る ○大龍峒保安宮成る
二四六七	同	四同	七二	○泉漳人分類械闘し中部地方焚燒殺戮數月に互る ○朱濱蘇灣を犯す ○新修臺灣縣誌成る ○楊廷理噶嘯蘭に至る ○王得祿兵を合せて賊を破る
二四六八	同	五同	七三	○薩摩山川の船(千八百石積)乗組二十三人臺灣東海岸に 漂着し臺に漂着せる箱館の文助に會し共に日本に送還 さる此時文助の同行の九人中生還する者唯一人 ○械闘に水師游撃を置き水陸兩路を兼管す
二四六九	同	六同	七四	○泉と漳粵分類械闘中部北部大焚殺行はる

紀元 日本 支那

紀元 日本 支那

二四七〇同	七同	一五	〇 鴨嘴閣(今の宜蘭)を設く (清濁の分るゝ處を居民は溜まなす) 〇 マルド、ブルンの臺灣事情成る 〇 十一月艇解の地震ふ	二四八六同	九同	六	〇 虎尾溪以北閩粵人分類械闘あり匪亂蕃害並び起る 〇 水沙連内潭に小山四座湧起す
二四七二同	八同	一六	〇 高慶亂を謀る 〇 陳迂谷生る	二四八九同	一二同	九	〇 姚瑩の東槎記略成る 〇 十月十二日星東海に隕つ聲雷の如く三投再起し飛んで西北に至つて墜つ其の光影天に映す
二四七二同	九同	一七	〇 八月彗星西北に見はる 〇 九月暴風あり澎湖島鹹雨を降して災害甚し 〇 鴨嘴閣熱蕃保護の爲め加留餘埔の制を立つ 〇 仰山書院を鴨嘴閣に建つ	二四九四同	五同	一四	〇 八月暴風あり海水漲溢五尺餘船舶顛覆溺死者無數 〇 閩粵人分類械闘 〇 十年以前の未納地租を免す
二四七三同	一〇同	一八	〇 楊廷理の議閉臺灣後山鴨嘴閣説略成る 〇 艇解天后宮新莊文昌宮成る	二四九六同	七同	一六	〇 高慶亂を作す、新莊縣丞予清瀚、艇解都司莊葉元等之を討つ
二四七四同	一一同	一九	〇 水沙連隘丁首等大に埔里社蕃地侵略を企つ 〇 鳳儀書院を鳳山城内に建つ 〇 北部大驚艇解龍山寺崩る	二四九七同	八同	一七	〇 文甲書院(後學海書院に改む)を臺北艇解に建つ 〇 ステフェンスの臺灣島志成る
二四七五同	一二同	二〇	〇 十二月淡水凍水寸餘	二四九八同	九同	一八	〇 蔣黃梅の澎湖記略續編成る 〇 十月地震あり雲林地方山岳崩れ住家倒壊多し 〇 芝山殿文昌宮を築く
二四七七同	一四同	二二	〇 淡水廳(今の新竹)儒學を創建す 〇 八月大風あり鹹雨を降す 〇 十二月星關渡に隕つ	二五〇〇同	一一同	二〇	〇 阿片戦争の餘響英艦基隆港を窺ふ 〇 曹謹等英夷を禦ぐ
二四八〇文政	三同	二五	〇 海寇盧天賜暹尾を犯す 〇 八月鴨嘴閣大風雨あり田園陥没するもの多し	二五〇二同	一三同	二二	〇 英艦大安港を窺ふ 〇 八月十六日夷船基隆港口に沈没す島人悉く其の乗組員を殺害す
二四八一同	四同	元	〇 海寇林烏與暹尾を犯す	二五〇三同	一四同	二三	〇 艇解學海書院立つ
二四八二同	五同	二	〇 林春春亂を謀る	二五〇四弘化	元同	二四	〇 漳泉人分類械闘
二四八三同	六同	三	〇 クラブルの臺灣博物誌成る 〇 七月颶風起り屋瓦飛び處舎民家倒壊甚だ多し 〇 林平候三貂嶺の通路を開鑿す	二五〇六同	三同	二六	〇 林本源家本邸を枋橋に構ふ
二四八四同	七同	四	〇 計尙亂を謀る 〇 文閣書院を鹿港に創建す	二五〇七同	四同	二七	〇 鍾阿山、郭懋猷、洪紀等相次いで亂を謀る
二四八五同	八同	五	〇 鳳山舊城を修復す	二五〇八嘉水	元同	二八	〇 英國海軍中將ゴルドン基隆に來り石炭を含める地層を検す 〇 九月鴨嘴閣三日間に亘り大暴風雨あり西勢、全面山、頭圍山等男女六十餘人壓死す又大里簡、草嶺、項隆、嶺等

二五〇九同	二同 二九	○道臺徐宗幹蒞任 ○竹塹回春院を立つ	二五二〇同	二同 五	○動物を研究す ○英人ミリン宜蘭に開墾を企つ ○正月大に雪降る大屯山積雪數尺
二五〇九同	三同 三〇	○三月嘉義大地震あり ○琉球民林廷標等三十四人噶瑪蘭へ漂著す ○六月噶瑪蘭雪降る	二五二〇同	二同 八	○海寇黃位基隆を犯す ○英國シヤルチンマツセスン及びテントの二會社は臺灣の官吏と締約し樟腦を購買す ○プルーカアの臺灣視察録成る
二五〇九同	四同 元	○鄭尙なるもの卑南を探検す ○清領となりて以來外國船初めて滬尾及び基隆に來りて貿易す商船の例に照して徵稅す ○三月澎湖大風霧あり鹹雨を降す ○琉球人宮平等十四人噶瑪蘭に漂著す	二五二〇同	二同 九	○スインホーの臺灣視察録成る ○九月七日漳泉分類械闘の爲め加獵仔庄燬く ○プロシヤのエルベ號南部生蕃の攻撃に遭遇し之を擊破す
二五二二同	五同 二	○北部臺灣霖雨春より夏に至りて歇まず ○林洪亂を謀る次いで吳桂、林汶英亂を謀る ○漳泉人分類械闘三角湧の匪徒八甲新莊を燬く ○噶瑪蘭廳志成る ○夏大屯山鳴ること三晝夜に及ぶ ○分類械闘の類焚艦船船師廟燒く ○宜蘭の平埔蕃花蓮港に移住す	二五二〇同	二同 一〇	○リヒトホーへん淡水港畔の地質を調査すリヒトホーへんは有名なる大著作支那の著者なり ○八月颶風あり鹹雨を降す民家倒壊船難破多し ○十月淡水地震あり日に凡そ三回
二五二二同	六同 三	○類唇、黃九位相次いで亂を謀る ○海寇黃得來來り犯す ○閩粵人分類械闘 ○米國水師提督ペルリ臺灣に來り其の富源に富めるを激賞し同行者ジョンスは基隆の石炭を調査す	二五二二同	二同 一一	○全臺釐金局を設け臺灣道の管理に屬す ○マツター臺灣に來る ○咸豐九年前に於ける未納地租を免す ○天津條約の結果淡水を開港し次で安平打狗基隆を開く ○三月十八日戴萬生亂を圖り淡水同知秋日親之に死す ○五月艦船縣丞郭志輝土匪楊買を捕ふ ○淡水地震あり五月復た強震あり
二五二二同	七同 四	○林房、王獅相次いで亂を謀る ○十月二十九日米艦臺灣近海に於て海底火山を見らる	二五二二同	二同 一二	○全臺團練の制を施行す ○林占楊義兵を募り彰化の圍を解く ○スインホーの臺灣人種誌及植物誌成る
二五二二同	八同 五	○七月十一日米艦基隆に入る ○戴萬生亂を作す ○島津家に於て臺灣討略の議あり ○ズウインホーは本年より十年間島内を跋渉し地理及び	二五二二同	二同 一三	○英人トッド大に臺灣の茶樹栽培を鼓吹す ○福州稅務司及び淡水稅務司等基隆の石炭開掘を請ふも准さず ○艋舺慈雲寺立つ
二五二二同	九同 六		二五二二同	二同 一四	
二五二二同	一〇同 七		二五二二同	二同 一五	
二五二二同	一一同 八		二五二二同	二同 一六	
二五二二同	一二同 九		二五二二同	二同 一七	
二五二二同	一三同 一〇		二五二二同	二同 一八	
二五二二同	一四同 一一		二五二二同	二同 一九	
二五二二同	一五同 一二		二五二二同	二同 二〇	
二五二二同	一六同 一三		二五二二同	二同 二一	
二五二二同	一七同 一四		二五二二同	二同 二二	
二五二二同	一八同 一五		二五二二同	二同 二三	
二五二二同	一九同 一六		二五二二同	二同 二四	
二五二二同	二〇同 一七		二五二二同	二同 二五	
二五二二同	二一同 一八		二五二二同	二同 二六	
二五二二同	二二同 一九		二五二二同	二同 二七	
二五二二同	二三同 二〇		二五二二同	二同 二八	
二五二二同	二四同 二一		二五二二同	二同 二九	
二五二二同	二五同 二二		二五二二同	二同 三〇	
二五二二同	二六同 二三		二五二二同	二同 三一	
二五二二同	二七同 二四		二五二二同	二同 三二	
二五二二同	二八同 二五		二五二二同	二同 三三	
二五二二同	二九同 二六		二五二二同	二同 三四	
二五二二同	三〇同 二七		二五二二同	二同 三五	
二五二二同	三一同 二八		二五二二同	二同 三六	
二五二二同	三二同 二九		二五二二同	二同 三七	
二五二二同	三三同 三〇		二五二二同	二同 三八	
二五二二同	三四同 三一		二五二二同	二同 三九	
二五二二同	三五同 三二		二五二二同	二同 四〇	
二五二二同	三六同 三三		二五二二同	二同 四一	
二五二二同	三七同 三四		二五二二同	二同 四二	
二五二二同	三八同 三五		二五二二同	二同 四三	
二五二二同	三九同 三六		二五二二同	二同 四四	
二五二二同	四〇同 三七		二五二二同	二同 四五	
二五二二同	四一同 三八		二五二二同	二同 四六	
二五二二同	四二同 三九		二五二二同	二同 四七	
二五二二同	四三同 四〇		二五二二同	二同 四八	
二五二二同	四四同 四一		二五二二同	二同 四九	
二五二二同	四五同 四二		二五二二同	二同 五〇	
二五二二同	四六同 四三		二五二二同	二同 五一	
二五二二同	四七同 四四		二五二二同	二同 五二	
二五二二同	四八同 四五		二五二二同	二同 五三	
二五二二同	四九同 四六		二五二二同	二同 五四	
二五二二同	五〇同 四七		二五二二同	二同 五五	
二五二二同	五一同 四八		二五二二同	二同 五六	
二五二二同	五二同 四九		二五二二同	二同 五七	
二五二二同	五三同 五〇		二五二二同	二同 五八	
二五二二同	五四同 五一		二五二二同	二同 五九	
二五二二同	五五同 五二		二五二二同	二同 六〇	
二五二二同	五六同 五三		二五二二同	二同 六一	
二五二二同	五七同 五四		二五二二同	二同 六二	
二五二二同	五八同 五五		二五二二同	二同 六三	
二五二二同	五九同 五六		二五二二同	二同 六四	
二五二二同	六〇同 五七		二五二二同	二同 六五	
二五二二同	六一同 五八		二五二二同	二同 六六	
二五二二同	六二同 五九		二五二二同	二同 六七	
二五二二同	六三同 六〇		二五二二同	二同 六八	
二五二二同	六四同 六一		二五二二同	二同 六九	
二五二二同	六五同 六二		二五二二同	二同 七〇	
二五二二同	六六同 六三		二五二二同	二同 七一	
二五二二同	六七同 六四		二五二二同	二同 七二	
二五二二同	六八同 六五		二五二二同	二同 七三	
二五二二同	六九同 六六		二五二二同	二同 七四	
二五二二同	七〇同 六七		二五二二同	二同 七五	
二五二二同	七一同 六八		二五二二同	二同 七六	
二五二二同	七二同 六九		二五二二同	二同 七七	
二五二二同	七三同 七〇		二五二二同	二同 七八	
二五二二同	七四同 七一		二五二二同	二同 七九	
二五二二同	七五同 七二		二五二二同	二同 八〇	
二五二二同	七六同 七三		二五二二同	二同 八一	
二五二二同	七七同 七四		二五二二同	二同 八二	
二五二二同	七八同 七五		二五二二同	二同 八三	
二五二二同	七九同 七六		二五二二同	二同 八四	
二五二二同	八〇同 七七		二五二二同	二同 八五	
二五二二同	八一同 七八		二五二二同	二同 八六	
二五二二同	八二同 七九		二五二二同	二同 八七	
二五二二同	八三同 八〇		二五二二同	二同 八八	
二五二二同	八四同 八一		二五二二同	二同 八九	
二五二二同	八五同 八二		二五二二同	二同 九〇	
二五二二同	八六同 八三		二五二二同	二同 九一	
二五二二同	八七同 八四		二五二二同	二同 九二	
二五二二同	八八同 八五		二五二二同	二同 九三	
二五二二同	八九同 八六		二五二二同	二同 九四	
二五二二同	九〇同 八七		二五二二同	二同 九五	
二五二二同	九一同 八八		二五二二同	二同 九六	
二五二二同	九二同 八九		二五二二同	二同 九七	
二五二二同	九三同 九〇		二五二二同	二同 九八	
二五二二同	九四同 九一		二五二二同	二同 九九	
二五二二同	九五同 九二		二五二二同	二同 一〇〇	





二五三七同 一〇同	三〇恒春知縣周有基等紅頭嶼を採檢す
二五三八同 一一同	四〇蕃人の撫育蕃地の拓墾を奨勵す
二五三九同 一二同	五〇臺東の加利苑及び阿眉蕃を討つ 五〇臺海地輿圖説成る 五〇淡水縣儒學を創建す 五〇化蕃催成る
二五四〇同 一三同	六〇水沙連化蕃を討伐す 六〇臺北府儒學を創建す 六〇登瀛書院及び考棚を建つ
二五四一同 一四同	七〇臺東の平埔蕃を討伐す 七〇團練總局を改めて培元總局とす 七〇七月澎湖暴風鹹雨を降す所謂麒麟颶なり或は火颶と云ふ北山大山嶼媽宮港被害最し甚し一箇月間鹹雨三次満野洗ふ如く實に慘憺たり
二五四二同 一五同	八〇英國博物學者ギルマールド臺海東海岸に上陸を試む 八〇臺北城竣成す
二五四四同 一七同	一〇華芒蕃社を討ち次いで東勢角方面の北勢蕃を討つ 一〇五月八日劉銘傳福建巡撫を拜す 一〇清佛戦争の餘響佛軍臺海島を封鎖す 一〇培元總局を改めて團練總局とす 一〇漁網の制を立つ 一〇烏岬艦艀の教會堂を破壊す 一〇八月クルベー艦隊基隆を砲撃す 一〇九月三十日佛軍基隆を占領す 一〇十月八日佛艦隊陸戦隊淡水を占領す
二五四五同 一八同	一一〇臺海を一省とし臺北、臺南、臺南の三府とし臺海縣を安平縣と改め新に雲林、苗栗二縣を設け臺東直隸州を置き元の臺海府を臺南と改め臺海府を今の臺中に置く 一〇東大屯に省城を置き臺海と稱す 一〇六月二十一日佛兵基隆を引揚ぐ 一〇劉銘傳臺海巡撫に任ず大に臺政の刷新に著手す
二五四六同 一九同	一二〇兵備を擴張し砲臺を修築し及び善後局、機器局を臺北に設置す 一二〇電報總局を設け全島及び福州に電線を架設し又た電報學堂を設く 一二〇清賦局を設け全島の田圃測量に著手す 一二〇撫墾局を設け蕃學堂を建て隘勇制を布く 一二〇登瀛書院を臺南城内に創建す 一二〇七月より巡撫劉銘傳蕃社討伐を行ひ四箇月間に其兵半を失ひ終に蕃人と和約して兵を撤す
二五四七同 二〇同	一三〇臺海鐵道の敷設に著手す 一三〇汽船を購入し對岸及び南洋の航通を計畫す 一三〇礦務總局を設け巡撫の直轄とし製腦採炭を官業とす 一三〇西學堂を創立す 一三〇英才書院を苗栗に創建す 一三〇東勢角方面の蕃社を討伐す 一三〇ラッペリーの臺海記成る 一三〇清賦丈量の結果地租税率を改定す 一三〇施九段亂を作す
二五四八同 二一同	一四〇基隆埔里社二廳を設く 一四〇臺東の平埔蕃を討つ 一四〇邵友濂布教使に任ず 一四〇劉敬按回道に任ず
二五四九同 二二同	一五〇巡撫劉銘傳援を福建水師に求め海陸合せて南澎蕃を討伐す二箇月に互り戦殺者全軍の半に及び終に撤兵す
二五五〇同 二三同	一六〇老狗蕃社を討つ 一六〇大崙嶼方面の蕃社を討つ 一六〇臺東の呂家望蕃社を討つ 一六〇八月臺海府の築城に著手す(今の臺中) 一六〇臺海府儒學を臺中城内に創建す又た老棚及び宏文書院を建つ
二五五〇同 一六	一六〇牡丹蕃社を討つ